

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成23年度 第1号
2011年7月15日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座リハビリテーション医学教室 田中 一成

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



日本リハ医学会 震災ワーキンググループ活動報告

大阪医科大学 総合医学講座リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

まず、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

未曾有の被害をもたらした3月11日の東日本大震災の発生直後から日本リハビリテーション医学会(以下、リハ医学会)では、交通機関が麻痺し多くの人々が帰宅難民化するなかで、余震などの恐怖と闘いながら里宇明元理事長以下、事務局が役員、評議員などの安否確認と被災地の情報収集を即座に始めました。そして、続々と安否情報が伝えられるなか、理事長は災害現場のニーズと提供可能な支援との橋渡しを関連団体と協力しながら遅滞なく行うことがリハ医学会の重要な役割であると判断され、阪神淡路大震災を経験している住田幹男監事、菅俊光理事と私に震災ワーキンググループ(以下、震災WG)を設置し、具体策を検討するように指示されました。

しかし、我々も阪神淡路大震災後16年を経て当時の記憶は薄れてしまっており、また、今回は地震のみならず津波の被害が甚大で、かつ被害が岩手県、宮城県、福島県など広域に及んでいることから、我々の経験だけでは対応困難と危惧しましたが、初回震災WGでは住田監事、菅理事、田中一成近畿地方会代表幹事、中土保副代表幹事のほか、巡り合わせか、災害時の医療、特にDMATを専門とした富岡正雄前・兵庫県災害医療センター救急部長が大阪医大近隣の病院に異動されており、震災WGへの参加を要請しました。

まず、富岡前部長に震災後のリハ・生活支援に関するリハ医学会としての対応などについて意見を求めたところ、①リハ医学会が対応すべき災害医療は、急性期医療と異なり継続性と安定性が必要である、②リハ医学会には災害地で活動するノウハウが少なく、単独での活動には問題が多い、③災害医療には拠点となる組織(Command & Control)が必要であり、次に、人、物、交通・物流などの安全性の確保(Safety)、その上

で外部との水平方向での情報共有ルートの構築と垂直方向の組織内での情報収集(Communication)と評価(Assessment)を行い、正しい判断と方向性に基づいた具体策を実施することが必要であるが、これらは「CSCA」と呼ばれ、災害対応に不可欠な基本事項であるとの助言を得ました。

この助言に基づいて震災WGは、理事長に東北大学(上月正博理事)などを中心とした組織の立ち上げとその後の方向などを提言しました。また、理事長からの要請に応じて、近畿地方会でも幹事が中心となり、リハ患者受け入れリストの作成とリハ医学会HP掲示板への情報提供を連日のように行いました。

一方、内閣府中央防災委員会の肝いりで始まったリハ・生活支援活動は、CSCAがおさなりにされ、一部地域への派遣だけで頓挫しましたが、4月中旬には震災WGの提言を生かし事務局機能を強化した東日本大震災リハ支援対策本部が設置され、リハ医学会を中心としたリハ関連10団体による被災地のリハ・生活支援活動が始まり、現在も継続されています。

震災発生後100日を過ぎ、震災WGの当面の役割は終わりましたが、被災地のリハ・生活支援の必要性はますます増大しています。今後も近畿地方会の会員各位の息の長い支援をお願いして、稿を終えたいと思います。

日本リハビリテーション医学会 公益法人化について

関西医科大学附属滝井病院 リハビリテーション科
菅 俊光

平成23年6月3日に開催された日本リハビリテーション医学会(リハ医学会)総会において、リハ医学会の公益法人化にむけての定款の変更が承認されました。正式にリハ医学会は社団法人より公益法人への移行を目指すことになりました。これに伴い現在の評議員制は代議員制に変更となり、その定員数も250-300名程度になります。現在の評議員数は約200名ですので、代議員数は現在の1.5倍に増員されることになります。また、前回評議員選挙で近畿地区に割り当てられた評議員数は38名ですが、次回代議員選挙でも近畿地区会員数に応じて代議員数が近畿地区に割り当てられ約55~60名程度になりそうです。

次に代議員選挙についてですが、総会で示された日程表では、2011/8/19(金):選挙告示、2011/9/20(火):立候補締め切り、2011/10月下旬:地区毎に候補者名簿・所信表明公示、11月下旬-12月上旬:選挙というスケジュールになっています。代議員の立候補条件も、これまでの評議員では「入会10年以上、評議員2名の推薦が必要」でしたが、代議員では「正会員でかつ正会員2名の推薦があればよい」と緩和されました。

このような状況で、近畿地方会としてどのようなアクションができるのかあるいはすべきかを検討中です。方針が決まりましたら、近畿地方会ホームページに掲載いたしますのでご参照下さい。

CONTENTS

- ◆ 日本リハ医学会震災ワーキンググループ活動報告 1頁
- ◆ 日本リハビリテーション医学会公益法人化について 1頁
- ◆ 地方会誌のWEB化について 2頁
- ◆ 新幹事の抱負Part2 2-3頁
- ◆ 新専門医に聞く 3-5頁
- ◆ 施設紹介(第10回) 5頁
- ◆ 第31回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 6頁
- ◆ 第31回近畿地方会開催概要 6頁
- ◆ 第6回日本リハビリテーション医学会専門医会
学術集会開催のお知らせ 7頁
- ◆ 2011年度近畿地方会研修会カレンダー 8頁
- ◆ 編集後記 8頁

地方会誌のWEB化について

リハビリテーション科診療近畿地方会誌編集委員長
阿部 和夫

以前から懸案であったリハビリテーション科診療近畿地方会誌のデジタル化を今年度より開始します。デジタル化には様々な方法がありますが、最も経費がかからないメディカルオンライン(<http://www.meteo-intergate.com/>)への掲載から行うことにしました。メディカルオンラインへの掲載自体は無料ですし、近畿地方会に対して著作権料が払われます。ただし、メディカルオンラインとの契約を行っている個人/施設 しかウェブでは閲覧

できないという問題があり、この点を解決するために地方会ホームページでも論文電子ファイルの公開を行うことにしました。

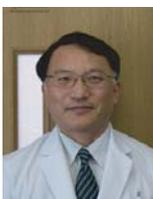
地方会誌のデジタル化は、経費の削減、学会誌の公開、会員の利便、などのために行われますが、デジタルコンテンツへのアクセスについては利便性の点からさらなる改善が必要です。将来的には、リハビリテーション医学と同じくJ-STAGEへの掲載が望ましいと考えます。しかし、J-STAGEへの掲載のためには、BIB形式への変換を行うこと、発行回数を増やすこと、など新たな問題解決が必要となり人的/経済的な負担が増す可能性もあります。

より良い電子化について会員の皆様から、ご意見が有れば事務局へお願いをします。

新幹事の抱負 Part2

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域もそれぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

奥村 元昭 東大寺福祉療育病院 整形外科・リハビリテーション科



このたび近畿地方会の新幹事を拝命しました東大寺福祉療育病院の奥村元昭です。私は昭和57年に奈良県立医科大学を卒業し、整形外科学教室に入局しました。平成6年以降は肢体不自由児施設、東大寺整肢園に勤務しております。平成20年に重症心身障害児施設の併設に伴い、東大寺福祉療育病院と名称変更し院長として現在に到っています。当院では主に小児整形外科疾患の治療や、障害児者のリハビリテーションを担当しております。近年脳性麻痺のみならず、発達障害児に対するリハビリのニーズも高まり、ますますこの分野にかかわるリハ医の人材育成が重要課題と考えています。微力ながら近畿地方会の発展のためにお役に立てれば幸いに存じます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

堀川 博誠 奈良県立医科大学 リハビリテーション部



私は昭和57年大阪市立大学医学部医学科を卒業して、奈良県立医科大学附属病院神経内科でリハビリテーション、内科、神経内科の研修をしました。研修終了後、平成5年まで研究医あるいは専修医として神経内科教室に所属していました。この間、5年3ヶ月国立療養所西奈良病院と国立療養所兵庫中央病院で神経筋疾患や神経変性疾患の臨床と研究をしました。平成3年7月より僻地支援病院の奈良県立五條病院に赴任しました。南和地区の基幹病院として、脳血管障害や変性疾患などの神経疾患患者の急性期から慢性期まで幅広く内科的治療とリハビリテーションに関与しました。平成6年に専門医を取得しました。

平成16年4月から奈良県立医科大学附属病院リハビリテーション部の教員をしております。神経筋疾患の電気診断とA型ボツリヌス毒素による神経疾患の治療も私の重要な仕事です。大きな病院なので症例も多彩で日々自分自身の進化を実感しています。

今回、幹事にさせていただき、有り難うございました。日本リハビリテーション医学会や近畿地方会に貢献できるよう、日々精進に務めますので、よろしくお願ひします。

矢倉 一 社会医療法人大道会森之宮病院 リハビリテーション科



このたびは近畿地方会の幹事に選出いただきありがとうございました。私は平成5年に富山医科薬科大学を卒業後、奈良県立医科大学神経内科学教室に入局しました。その後、奈良県総合リハビリテーションセンターで森本茂先生(現在、西大和リハビリテーション病院)にリハ医としての基礎を、ポバース記念病院では鈴木恒彦先生(現在、NTT東日本 東北病院)と宮井一郎先生に脳卒中リハビリテーション全般につきご指導いただきました。現在は、森之宮病院の回復期リハビリテーション病棟のリハ専任医として日常業務をこなしています。以前に脳卒中のチームアプローチの重要性について研究しましたが(Cerebrovascular Disease 2005)、その信念を支えに臨床に研究に、そして病棟スタッフと結成したソフトボールに励んでおります。また、大阪脳卒中医療連携ネットワークでは、急性期病院や回復期リハビリテーション病院の多くの医療スタッフの方と大阪市の脳卒中リハビリテーションを盛り上げようと微力ながらがんばっております。

今後は近畿地方会のさらなる発展に貢献できればと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

隅谷 政 大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部



この度は本会の幹事に就任させていただき誠に光栄です。生まれも育ちも大阪なのですが、産業医科大学卒業後は主に東海地方会に所属しておりました。平成20年度から近畿地方会へ所属させていただいております。近畿地方会は南北に広い地域を含んでいますので、リハビリテーション医療の普及している地域もあればそうでない地域も相当あって、両者の較差がかなり大きいのではないかと推測いたします。私は、リハビリテーションに理解の乏しい医療施設で患者さんたちのために日夜孤軍奮闘されている先生方のために少しでもお役に立ちたいと思っております。この5月には生涯教育研修会を大阪で開催させていただきました。今後も編集委員の一員として微力を尽くしたいと思っております。近畿地方会において熱意あるリハビリテーション医が数多く育成され、あらゆる地域のリハビリテーション医療水準が向上することを願っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

鉄村 信治 奈良東病院 リハビリテーション科

このたび近畿地方会の新幹事に仲間入りさせていただきました奈良東病院の鉄村と言います。私は平成7年に大阪医科大学を卒業後、整形外科学教室へ入局しました。以後、各関連病院を回った後、約4年前より現在の職場で勤務しております。また、同時期より大阪医科大学のリハビリテーション科の方で研修をさせて頂いており、佐浦教授、田中先生の御厚意により、昨年度からは非常勤講師として学生教育の方も担当させて頂いております。現在は主に回復期リハ病棟で運動器疾患中心に診療を行っておりますが、当院は認知症を含めた重症患者が多く、日々悪戦苦闘しております。まだまだ若輩者でありリハ医としても経験不足ですが、このような機会をいただき、諸先生方からご指導いただけるチャンスであると大変よろこんでおります。また、近畿地方会の方では教育委員の担当となり、研修会の運営等につき仕事させていただく事になりました。何か自分なりのアイデア等少しでも出せればと考えております。今後少しでもお役に立てる様がんばりたいと思いますので、ご指導よろしくお願い致します。

川上 寿一 滋賀県立成人病センター リハビリテーションセンター医療部リハビリテーション科

このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を務めさせていただくことになりました。私は現在、滋賀県立成人病センターのリハビリテーション科に所属しております。当科は滋賀県立リハビリテーションセンターの医療機能を担うことから、病院の中央診療機能と県域のリハビリテーションセンター機能の双方を充実することを目標としています。現在、急性期の医療のリハビリテーションから、地域における関係機関などの協働活動などをふくめた社会参加を目標としたリハビリテーションや地域における啓発活動などに従事しています。

リハビリテーションを通して携わるべき事柄は、機能再建などの側面から、物理的、社会的、心理的その他多面にわたります。近年、回復期リハビリテーション病棟が増加しましたが、くらしに立脚したリハビリテーションの必要性はさらに充実することが求められています。そこでは、医科学、工学、社会学などに横断的包括的にかかわるリハビリテーション医学の役割は重要と思われれます。

健康と社会的な生活の構築に対する努力をご指導いただきながら継続して行いたいと考えております。どうかよろしく願いいたします。

小口 健 白浜はまゆう病院 リハビリテーションセンター

この度は幹事に選出して頂き有難うございます。大阪大学医学部附属病院リハビリテーション部で阿部和夫先生にご指導を頂いた後、2005年より白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院リハビリテーションセンターで、リハビリ医として診療業務に従事しております。当院では急性期・回復期・療養の各病棟、外来・訪問と幅広くリハビリを行っており、脳血管障害や整形疾患周術期、神経筋疾患等が主ですが、他にも地域の患者様のニーズにはできるだけ応えられるよう心がけております。高齢化が進む当地におきましてはリハビリの需要は多く、リハビリの果たす役割も大変大きいのですが、その供給や連携に関しましてはまだ十分とは言えません。地域リハビリ広域支援センターとしての活動を通じて等で少しずつでも体制を充実させていきたいと考えております。今回、広報委員に任命頂きました。リハビリの重要性の認識を高めていけるよう、広報委員としてのお仕事を通じ近畿地方会の発展に少しでもお役に立てればと存じております。どうぞ宜しくお願い致します。

**新専門医
に聞く**

平成23年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

河崎 敬 和歌山県立医科大学 リハビリテーション科

和歌山県立医大リハビリテーション科の河崎敬と申します。この度平成23年度専門医を取得させていただきました。和歌山県立医大は近畿の国立大学で唯一のリハビリテーション医学教室があり、田島教授をはじめ諸先輩方から御指導を受け、日々臨床・研究に邁進しています。現在日本の医療において過疎地・僻地の医師不足が問題であり、和歌山県でも本州最南端に位置する串本町、白浜、那智勝浦などの温泉地等、僻地への医療の提供が県立医科大学の医師に求められています。今後全国的にリハビリ医療への需要が増加する中、僻地への良質なリハビリ医療の提供も急務であり、その一助として新専門医として当教室の理念である患者様中心の医療、患者様を全人的に診るwhole bodyの精神を今後も継承していきたいと考えております。

菊地 克久 滋賀医科大学リハビリテーション科

整形外科で主にリウマチ関節外科を中心に活動し、平成20年からは回復期リハビリ病棟での仕事も兼ねておりました。又、今秋からは滋賀県の東近江医療圏へ地域医療再生の為に、大学の寄附講座の形で出向する事になりました。一部を除き、急性期から維持期までの地域ネットワークがまだ不十分で、自立に向けた専門家の関わりも少ない状況のようです。今回専門医に加えて頂き、整形の運動器リハビリのみならず、他分野のリハビリでも、①リハビリの普遍化、②チーム医療の実現、③機能分化・連携、④システム・ネットワーク化(組織化)、をそれぞれ積極的に推進できるような力になりたい、と考えています。

金澤 慎一郎 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院

今回専門医に迎えていただきました。私は平成元年に香川医科大学を卒業、神戸大学整形外科に入局しました。肢体不自由児施設に8年間勤務したのがリハビリに向きあうきっかけでした。経験したことのない脳性麻痺の方に接することが多くなり、整形外科の知識だけでは対応が困難なことが多々ありました。5年前にリハビリテーション西播磨病院設立と同時にリハビリテーション中央病院から異動し現在に至っています。障害者病棟では脊髄損傷、外来では近隣の脳性麻痺の方(特別支援学校と小児デイサービス施設が近くにありまます)に関わるが多くなりました。微力ながら多職種連携によるリハビリに努めて行きたいと思っております。

今井 晋二 滋賀医科大学

この度、専門医に登録頂いた滋賀医科大学の今井でございます。私は平成元年に同大学を卒業後、同年同大学整形外科に入局しました。平成2年に同大学大学院に入学し、平成6年に終了し博士号を取得しました。平成6年から草津総合病院整形外科で勤務した後、平成8年からヘルシンキ大学医学部整形外科にて留学いたしました。平成10年日本学術振興会・特別研究員(PD)に就任し、アムステルダム自由大学歯学部にて平成13年まで留学いたしました。平成13年より同大学整形外科・助手、平成16年よりリハビリテーション部・助教授、平成20年よりリハビリテーション科・科長を拝命しております。また、平成18年より日本リハビリテーション医学会・近畿地方会幹事を拝命しております。専門分野は骨粗鬆症性脊椎疾患、鏡視下肩関節手術、上肢マイクロ手術であります。専門医登録を機に更なる研鑽を重ねる所存でございます。

佐々木 裕介 和歌山県立医科大学リハビリテーション科

専門医となりようやくリハ医としての第一歩を踏み出すことができました。リハビリテーション医学は、医学の中でも研究・臨床両面において最も視野を広く持つ必要がある分野であると考えています。臨床ではジェネラリストとして幅広い知識・技術が必要ですので、一段一段経験を積んでいきたいと思っております。日本ではまだまだリハビリテーションの本当の意義が理解されていないのが現実です。各科に渡る横断的な医学である以上、他科からの理解が非常に重要になってきます。他科の医師、患者に関わるすべてのスタッフおよび家族にリハビリテーションの視点を知ってもらい実践してもらうことがより多くの患者のためになると考えています。

細見 雅史 兵庫医科大学 リハビリテーション部

私は、現職に就くまでは、主に神経内科医・老年内科医として医療に従事してきました。それらの臨床の場においてリハビリテーションに対する社会的なニーズの高まりを感じておりました。実際に、勉強し始めて、リハビリテーション医学は、解剖学から生理学などの基礎的な知識を始め、多くの分野にわたり偏りのない知識が必要であることを実感しました。

専門医試験勉強には正直疲れましたが、今回の試験合格後も、まだまだ不足する知識を補うために、あるいは医学の進歩に追いつくためにも日々の勉強が必要とされます。今後ともさらに、学ぶ姿勢を大事にしていきたいと思っております。

三浦 靖史 神戸大学

この度、専門医の認定を頂きました神戸大学の三浦と申します。私は、大学院保健学研究科准教授として、コメディカル教育と、リウマチケアと身体障害者補助犬に関する研究を行う一方で、医学部附属病院リハビリテーション部副部長としてリハビリの運用と、関節リウマチの集学的治療と研究に当たっております。近年、脳卒中ケアユニットの設置や、がんリハビリの実施など、大学病院のリハビリは大きく変わってきました。医学部・附属病院と保健学研究科・保健学科とを一体として、大学におけるリハビリ診療・教育・研究を、時代の要望に応えた充実したものとするべく微力を尽くす所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

小谷 育男 北斗会さわ病院

今春、リハビリテーション科専門医の認定を受けました小谷 育男(おせ いくお)と申します。平成15年に鹿児島大学を卒業し、堺市、東大阪市で内科・リハ科の研修の後、平成22年1月から精神科に移り、平成23年7月から豊中市の北斗会さわ病院精神科に勤務し現在に至っております。この間、平成22年4月より、関西医科大学滝井病院リハビリテーション科で研究医員としてリハビリテーション医学の勉強も続けています。現在、精神科医とリハ科医の二足の草鞋を履いておりますが、あまり何科ということにこだわりはなく、高次脳機能障害や認知症、発達障害などを「認知(cognition)」という切り口で、方法論として神経心理学などを用いながら臨床と研究を進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

滝沢 歩武 国立循環器病研究センター脳神経内科

はじめまして、国立循環器病研究センター脳神経内科の滝沢歩武と申します。平成17年に鳥取大学を卒業後、長野県の相澤病院にて初期臨床研修を2年間行い、その後同院リハビリテーション科にて4年間後期臨床研修を行い、平成23年度より現在の病院にて脳卒中を中心に勉強させていただいております。今後は脳卒中専門医を取得し、リハビリテーション科専門医として脳卒中急性期から慢性期まで広く診療できるよう、研鑽を積んでいきたいと思っております。また研修会なども積極的に参加し、広い視野をもってリハ医療を学び実践していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

池淵 充彦 大阪社会医療センター附属病院

この度、リハビリテーション専門医の末席に加えていただきました、池淵充彦と申します。卒後は一貫して整形外科医として勤務してきましたが、脳性麻痺患者さんの治療・回復期リハビリテーションに接する機会を得て運動機能の回復と社会復帰に興味を覚え、遅まきながら専門医資格の取得を志した次第です。

現在は西成の大阪社会医療センター附属病院で整形外科医として勤務しており、リハビリテーション医療から離れた環境ではありますが、少しずつでもリハビリテーション専門医としての研鑽に努めていきたいと考えております。

今後とも、諸先生方からのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

田中 有美 箕面市立病院リハビリテーション科

平成四年鹿児島大学卒、麻酔科より平成九年に鹿児島大学リハビリテーション科へ転科、平成十三年より大阪大学整形外科に加えていただきました。結婚、出産を経て、この度ようやく専門医に認定していただきました。これまで数多くの症例を経験させていただいた、田中信行先生、川平和美先生、大澤傑先生に感謝申し上げます。

リハビリテーション科へ転科の動機は、学生時代の講義で高次脳機能の不思議さもさることながら、趣味であるバドミントンを通じての運動生理、コンディショニング等、病院と生活を繋ぐ、自分にとってはより身近な医療と感じたからです。

これからも地域に根ざしたリハを展開していけるよう、微力ながら尽力したいと存じます。

梅本 安則 和歌山県立医科大学 リハビリテーション科

今回、リハ専門医になり、出発点に立ったという希望を持つ以上に責任を感じています。

リハを専門とする立場となり、責任を持って障害者の全ての問題点をmanagementする難しさを痛感し、諸先輩方の偉大さを再確認しています。

リハ医として、勤務し始めた時から分かっていましたが、専門医となり、前以上に患者さんをmanagementするために必要な知識・経験を粛々と積み重ねていく事だけが、一人前のリハ専門医になる道であると感じております。

今後とも、諸先輩方のご指導を頂き、生命予後・機能・能力・社会生活を向上させる事が出来、患者さんから心から信頼して貰える専門医となれる様に努力してまいりますので、ご指導の程をよろしくお願い申し上げます。

施設紹介 <第10回>

社会福祉法人東大阪市社会福祉事業団 東大阪市療育センター

〒577-0065 東大阪市高井田中1丁目5番16号
TEL:06-6783-1425(代) Fax:06-6783-6105
<http://www.hsj.or.jp/ryoiku/index.htm>



それから二十数年、現行の法制度に則った施設として、診療所にはあらたにST、心理室を配置し、発達障害支援センターPAL(パル)も併設、脳性麻痺、激増する発達障害や重度心身障害児、染色体異常や難病等にも対応しているわけですが、平成20年になり、国で「障害児支援の見直し」がされるに従い、先駆的・実験的であったがために継続できなかった幾つかの取り組みも、約三十年の年月を経てようやく息を吹き返す可能性が出てきたように思われます。

いずれにしても、これからの道程も決して平坦なものではなさそうですが、理念である「障害を持ったすべての子どもたち・人々が、地域の中でごく当たり前暮らししていけるよう、その生活と健康を支える」ために、地道な努力を重ねてゆかなければならないと考えています。

(センター長 勝山 真介)

東大阪市療育センターは、近鉄奈良線河内永和駅から北へ徒歩10分程度の、東に生駒山を望むところにあります。障害児保育の制度化や養護学校(今の支援学校)の義務制化が図られ、ノーマライゼーションやインテグレーションの機運が高まっていた昭和55年1月、その産声をあげました。当初より通園、診療、相談の3つの部門からなり、通園部門の「第一はばたき園」は定員60名の知的障害児、「第二はばたき園」は定員40名の肢体不自由児の施設で、障害種別にこだわらない療育と、親支援の重要性から母子通園を原則としました。指導員、PT、OT、看護師、保健師、臨床心理士など、あらゆるスタッフが一緒に参加し、地域療育を目標に掲げ、子どもの日常生活圏で生活することを手助けするために、さまざまな療育サービスが開始されました。診療部門では、外来児(者)診療(小児、リハ、整形、児

童精神、歯科、他)や、保育所・学校等への巡回相談、一時預かりをする「ホステル」(今の短期入所)を置きました。相談部門にはコーディネーターを置き、家庭児童相談室などの協同療育や、主にボーダーライン層にある子を見るための観察グループ、保健師による在宅障害児(者)訪問指導も行なわれました。いずれもニードに即した、国や府の制度にのらない東大阪市独自の事業でしたが、法制度というものはニードに遅れて整備されていくのが通常で、センター独自の事業や業務も、法制度が整うのを待たず、財政的な制約を受け、またリーダーを失うという悲劇にも見舞われ、あるものは姿を変え、縮小、廃止の道を進ることになります。(興味のある方は、エンパワメント研究所より出版されております向井承子著「たたかいはいのち果てる日までー医師中新井邦夫の愛の実践」をお読み下さい)



第31回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医 生涯教育研修会開催にあたって

第31回リハ医学会近畿地方会学術集会 会長 福田 寛二
近畿大学医学部 リハビリテーション医学科

平成23年9月17日(土曜日)に第31回日本リハビリテーション医学会近畿地方会を大阪市で開催させていただくこととなりました。近年、多岐にわたる疾患や病態でリハビリテーション医学の必要性・重要性が認識されてきました。このような現状で、今回教育講演として嚆下、

呼吸、そして救命救急という超急性期のリハビリについて、それぞれ著名な先生方に講演いただけることとなりました。藤島一郎先生(浜松市リハビリテーション病院)には「嚆下の運動学とリハビリテーションのトピックス」を、東本有司先生(近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科)には「呼吸リハビリテーションの実際」を、菊地尚久先生(横浜市立大学附属病院リハビリテーション科)には「救命救急でのリハビリテーションの意義」をお話いただきます。リハ科専門医にとっても、これからリハ科専門医を目指す先生方にとっても、日常の診療に役立つ講演をと考え企画しました。

このほか一般演題も募集中です。多数の会員の皆様のご発表とご参加をどうぞよろしくお願いいたします。活発な議論ができることを楽しみにしております。

第31回日本リハビリテーション医学会近畿地方会 学術集会および専門医、認定臨床医生涯教育研修会

日時:2011年9月17日(土) 13:00~18:00

会長:福田 寛二(近畿大学医学部リハビリテーション科)

会場:中外製薬大阪支店12階会議室

大阪府大阪市淀川区宮原3-3-31 上村ニッセイビル
電話 06-6350-6355

地下鉄「新大阪駅」(4番出口)より徒歩3分、
JR「新大阪駅」より徒歩8分

1. 一般演題

演題申し込み要領

E-mailにて、演題名、演者名、所属、抄録(400字以内)、連絡先を記載し、近畿大学リハビリテーション科 上田昌美 宛(m-ueda@med.kindai.ac.jp)までお送りください。必ず受信確認の連絡を1週間以内にいたしますので、万一連絡がない場合には、電話連絡をお願いいたします。

近畿大学医学部リハビリテーション科
上田まで 072-366-0221(内線3212)

演題締め切り:2011年8月5日まで

認定単位:10単位予定

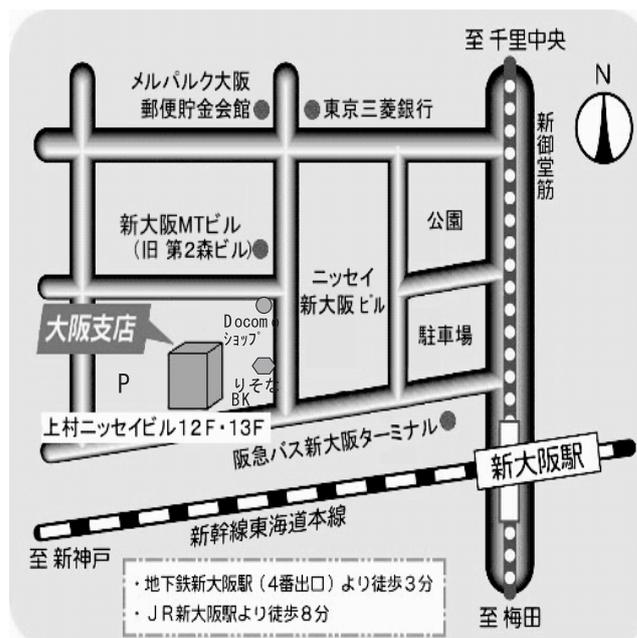
発表形式:Mac PCの方は必ずご自身のPCをお持ちください。Windowsの方はPCでもUSBメモリーのみでも受付可能です。

2. 教育講演

- | | | |
|----------------------------|----------------------|----------|
| 1.「嚆下の運動学とリハビリテーションのトピックス」 | 浜松市リハビリテーション病院 | 藤島 一郎 先生 |
| 2.「呼吸リハビリテーションの実際」 | 近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科 | 東本 有司 先生 |
| 3.「救命救急でのリハビリテーションの意義」 | 横浜市立大学附属病院リハビリテーション科 | 菊地 尚久 先生 |

認定単位:30単位予定 受講料:3000円(30単位一括) 事前申込み:不要

会場へのアクセス



お問い合わせ先

近畿大学医学部リハビリテーション科 福田寛二(担当者:上田昌美)

Tel: 072-366-0221(内線3212) E-mail: m-ueda@med.kindai.ac.jp

第6回日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会開催のお知らせ

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

今回、平成23年12月10日(土)から11日(日)に第6回日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会を開催させて頂くことになりました。プログラムがままりましたので、その概要をお知らせします。詳細につきましては、ホームページ(<http://www.secretari.jp/rehasen6/>)をご参照ください。引き続き、皆様に満足して頂ける様に鋭意準備しております。ご多忙の折とは思いますが、是非ご参加下さい。

特に、近畿地区から多くの先生方のご参加を心からお待ちしています。

- * 専門医の資格更新(5年毎)には、専門医会学術集会への参加が必須となっています。まだ、参加されていない方はこの機会に是非ご参加ください。
- * 非専門医の方の参加も歓迎致します。是非ご参加ください。

第6回日本リハビリテーション医学会専門医会学術集会 会長 菅 俊光
(関西医科大学附属滝井病院リハビリテーション科)

テーマ リハビリテーション科医の主張

会期：2011年12月10日(土)～12月11日(日)

場所：神戸国際会議場メインホール 兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1

参加費：12,000円(教育講演受講料を含めて)

プログラム

●教育研修講演

1. 「リハビリテーション支援ロボット」…………… 産業医科大学リハビリテーション医学講座 和田 太 先生
2. 「脳卒中上肢麻痺のリハビリテーション」…………… 東京慈恵会医科大学附属病院リハビリテーション科 安保 雅博 先生
3. 「リハ科専門医としてのこどもへの関わりかた」…………… 昭和大学医学部リハビリテーション医学教室 水間 正澄 先生

●シンポジウム「がんのリハビリテーション」(演者公募)

●パネルディスカッション

- (1) 「地方会での取り組み」
- (2) 「リハビリテーション科医師の奮闘記」(演者公募)

●ミニシンポジウム「リハビリテーション医療における精神症状への薬物療法」

●専門医会研究助成発表

●総会

●セミナー(ランチョンセミナー)(実技セミナー:エコー・小児)(RJNセミナー)

●意見交換会

※公募に関するお知らせ

シンポジウム「がんのリハビリテーション」、パネルディスカッション(2)「リハビリテーション科医師の奮闘記」の演者につきましては、公募としました。多くの方のご応募をお待ちしています。詳細についてはホームページ(<http://www.secretari.jp/rehasen6/>)をご覧ください。

日本リハビリテーション医学会ホームページ(<http://www.jarm.or.jp/>)

→リハ医学会とは? →地方会→近畿地方会

あるいは →専門医会→リハビリテーション科専門医会学術集会 から入れます。

お問い合わせ先 第6回リハビリテーション専門医会学術集会事務局
〒616-8262 京都府京都市下京区中堂寺粟田町93番地
京都リサーチパーク6号館3階 セクレタリアット内 担当:林・西尾
TEL&FAX:075-315-8472 Email:rehasen6@secretari.jp

2011年度近畿地方会研修会カレンダー

◆第31回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2011年9月17日(土) 13:00~18:00

会場：中外製薬大阪支店会議室

演題：1.『嚥下の運動学とリハビリテーションのトピックス』

浜松市リハビリテーション病院院長 藤島 一郎 先生

2.『呼吸リハビリテーションの実際』

近畿大学医学部呼吸器・アレルギー内科講師 東本 有司 先生

3.『救命救急でのリハビリテーションの意義』

横浜市立大学附属病院リハビリテーション科 准教授 菊地 尚久 先生

担当幹事：福田 寛二(近畿大学医学部整形外科 リハビリテーション科)

◆第44回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2011年10月15日(土) 14:00~17:00

会場：兵庫医療大学 オクタホール

演題：1.『Neuro-rehabilitationの展開としてのCI療法』

兵庫医科大学リハビリテーション医学教室教授 道免 和久 先生

2.『脊椎疾患のEBM』

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター院長 米延 策雄 先生

3.『摂食・嚥下リハビリテーション Up to Date』

藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学講座教授 才藤 栄一 先生

担当幹事：野崎 園子(兵庫医療大学 リハビリテーション学部)

◆日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2011年11月5日(土) 15:30~17:30

会場：生田神社会館

演題：1.『脳外傷における社会的行動障害』

名古屋市総合リハビリテーション事業団附属病院 第一リハビリテーション 部長 小川 鉄男 先生

2.『足部骨関節傷害の診断と治療ー早期社会復帰をめざしてー』

春秋会 城山病院整形外科 部長 熊野 穂積 先生

担当幹事：村尾 浩(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部)

※当日は同じ会場で兵庫県リハ医学会学術集会が開催されます。

◆日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2011年11月20日(日)

会場：京都府立医科大学 図書館ホール

担当幹事：武澤 信夫(京都府リハビリテーション支援センター)

※当日は同じ会場で京都地域リハビリテーション研究会が開催されます。

◆第32回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2012年2月~3月

会場：奈良県

担当幹事：堀川 博誠(奈良県立医科大学 リハビリテーション部)

編集後記

今回から本ニュースレターは完全なペーパーレスで発行しております。お手元のニュースレターをご覧になられてどうお感じになりますか？これまで私自身が発行に関わった雑誌や新聞、パンフレットが出来上がった際には、それを開ける時にどことなくインクの匂いがするようなドキドキ感がありました。ニュースレターに限らず論文掲載も電子化され、小説などもiPadやスマートフォンで手繰る時代です。今回はいかがでしょう？折りたたまれて郵送されてきたニュースレターを開くときのようなあの感じを表現できるように今後も編集に尽力していきたいと思っております。ご寄稿頂きました先生方には改めてまして感謝申し上げます。

青山朋樹(京都大学大学院医学研究科)

